教師の仕事を知る③

高校教師の心得

第❹回

生徒指導

監修
服部 次郎
（はっとり・じろう）東京女子体育大学・短期大学教授。筑波大学附属坂戸高等学校教諭，同校長，筑波大学教授などを経て，2006年４月から現職。全国高等学校長協会理事など公職を歴任している。

良い授業に不可欠な生徒指導

前回までは，教師の仕事の中心は「授業すること」であると述べてきました。しかし，高校教師は授業にだけ取り組んでいればよいわけではありません。生徒の学校生活全般において，人間としての在り方を指導する，下表に示すような生徒指導もあります。学習指導と生徒指導は教師の仕事の両輪と言えます。

ある授業場面を考えてみましょう。その教師は綿密な教材研究をして，最適な指導案を作って授業を行っています。ところが，教室には，私語をする，居眠りをする，携帯をいじっている…など，授業に集中していない生徒たちがいます。もし，教師がこれらの生徒を無視して一方的にしゃべり続けているとすれば，どんなに質の高い授業でも，これは良い授業をしているとは言えません。生徒の私語や居眠りや携帯を注意して，授業に集中することの大切さを教えることも教師の重要な仕事です。

このように，教科の内容を理解させる学習指導は，授業に臨む正しい姿勢（在り方）を指導する生徒指導と相まって，教育の効果を上げます。そのため，どんなに教材研究を深めて豊富な教科の知識を持っていても，生徒の私語を注意したり，学習の大切さを指導する生徒指導ができない教師は，優れた授業者とは言えません。

生徒指導の三つの柱

○生活指導
…服装・遅刻や問題行動などの指導
○ホームルーム指導
…担任によるホームルーム活動の指導
○生徒会指導（部活動指導を含む）
…学校行事・生徒会行事の指導や部活動の指導

生徒たちの本心

生徒にとって，学校で過ごす時間の大半は授業です。どんなに勉強が不得手で成績が振るわない生徒でも，学校に来る目的は何かと問われれば，授業を受けて自分を成長させること，と答えます。あまり素直でない生徒でも，内心では授業を受けて賢くなりたいと思っています。

しかし，そうは思っていても，授業に出ると分からない，つまらない，我慢ができない…，となって，私語などをしてしまいます。それはいけないことだと分かっていても，教師に無視されると，なおさら授業に背を向けます。こうして疎外感を抱えた生徒たちは，どこかにはけ口を見つけようとし，時には問題行動に走ります。問題行動を起こす生徒の大半は，授業から疎外されたという意識を抱えているのです。

こまめな生徒指導が第一歩

教師にとって，生徒指導の出発点は授業です。授業に集中して新しい知識・技能を学習し，自分を成長させることが，人間としてどれほど大切なことかを生徒に教えなければなりません。それには，私語をする生徒を見逃さずに注意したり，居眠りをする生徒を起こして「頑張れ」と励ましたり，携帯をいじる生徒に「授業中にすることではない」と教えたりと，一人ひとりの生徒と向き合って，あきらめずにこまめな生徒指導を重ねることが第一歩になるのです。

生活指導は全教師の仕事

生徒指導の内容は，生活指導・ホームルーム指導・生徒会指導（部活動指導を含む）に大別されます。この三つのうち，あとの二つは次回以降で説明することにして，ここでは生活指導について述べます。

生活指導は，生徒に学校生活における規律を守らせ，望ましい集団生活の中でより良い人格形成を行うための指導です。そのために，具体的には服装検査・校門指導・巡回指導などを行います。また，喫煙や暴力など，問題行動を起こした生徒に対応した指導を行います。すなわち「校内取り締まり」的な役割です。

教師の仕事分担である校務分掌では，生徒指導部が主体となって生活指導を行いますが，本来，生活指導はすべての教師の仕事であって，一部の教師のみが負担するものではないことを肝に銘じるべきです。たとえ生徒に嫌われようとも，きちんと守らせるべきものは守らせる教師でなければなりません。

生活指導をする際に心掛けることは，目の前の生徒のことを固定的に決めつけないことです。高校生は成長し続ける存在であり，自立しようとする中では教師という「権威」に反抗的になります。このようなとき，反抗的な生徒にカッとなってはいけません。生徒が何につまずき，いら立ち，反抗的になっているのかを見極め，解決の糸口を共に考えようとするのが教師の取るべき態度です。例えば，服装検査にしても，ただ規則違反と決め付けるのではなく，なぜ規則を守ることが必要なのかを生徒に納得させる指導の方が大切です。

人間としての“道”を教える師

教師を目指す学生が，「生徒と友達のように分かり合える教師になりたい」などと言うことがあります。さて，教師は「生徒と友達のように分かり合える関係」になれるのでしょうか。

例えば，教師であるあなたが，学校から帰宅途中の駅でたばこを吸っている生徒とばったり出くわしてしまったとします。目が合ったその生徒は，自分が指導する部活の期待のエースです。あなたならどうしますか。

「高校生くらいの時には喫煙に興味があるものだ。気持ちは分かるから見逃してやるか」。それが生徒と分かり合える教師でしょうか。もしそう考えたとしたら，あなたは教師失格です。

多くの場合，高校生が喫煙するという行為は，何らかの問題を抱えていることの表れです。これを，「二度とやるなよ」などと言って見過ごすことは，その生徒が抱える心の闇に迫ろうとせずに突き放すことになります。それが，「友達のような教師」の限界と言えます。

たかがたばこ，ではありません。高校生の喫煙は法律で禁止されています。たとえ自分の部活のエースであろうと，このことで部が一定期間の活動停止になろうと，この生徒にきちんと高校生のあるべき姿を教えなければなりません。それはこの生徒を大切に思い，健全な成長を願っているからこその指導です。毅然（きぜん）と，学校の生徒指導の方針にのっとって指導しなければなりません。指導の過程でその生徒の心の闇と向き合い，再び前向きな道に引き戻してやることが教師の仕事です。すなわち，教師は人間としての道を教える師でもあるのです。

Point!

高校教師の「生徒指導」の心得

- ○学習指導と生徒指導は教育の両輪である
- ○生徒指導の出発点は授業である
- ○生活指導はすべての教師の仕事である
- ○人間としてあるべき姿を語れなければ教師ではない

☆次回はホームルーム指導を取り上げます。